

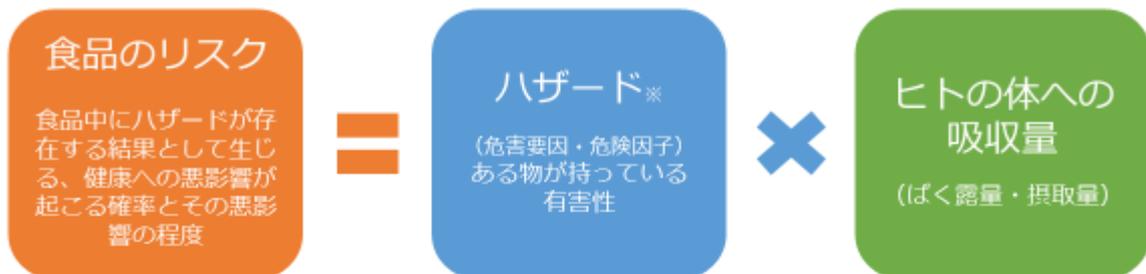
解説

IARC の評価には、どのような意味がありますか？
今回の評価の解釈には、注意が必要です。
どのような食品も、健康への影響は量次第です。
食品の良い面・悪い面の両方を意識しましょう。
これまでどおりバランスのよい食生活を送りましょう。
各国政府機関のコメント

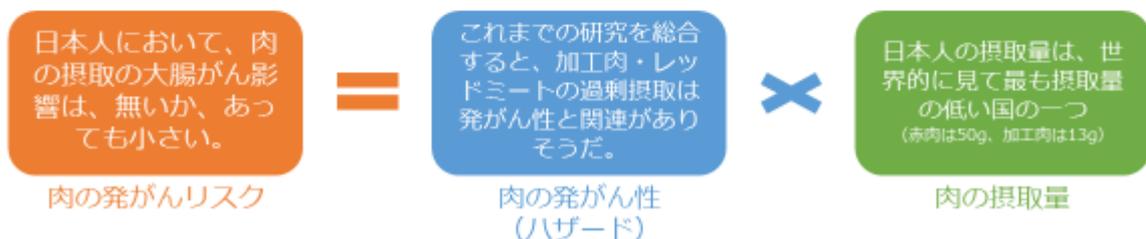
IARC の評価には、どのような意味がありますか？

IARC の今回の発表は、赤肉及び加工肉がヒトに対する発がん性の危険因子（危害要因、ハザード）であるかどうかを評価した、言い換えれば発がん性を有するかどうか、発がん性との因果関係の科学的根拠の強さを判定したものです。摂取量も考慮しヒトに対してどの程度リスクがあるかを判断したのではなく、赤肉等のヒトの健康に対する影響の大きさを推し量れるものではありません。

ハザード（危害要因）とリスクの違い

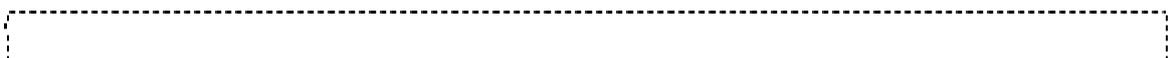


赤肉・加工肉に関して、日本人について考えてみると、



※ 健康に悪影響を及ぼす可能性を持つ食品中の生物学的、化学的又は物理学的な物質・要因・食品の状態

海外（英国）の WEB サイト¹では、IARC の評価の理解のために、以下のような例を紹介しています。



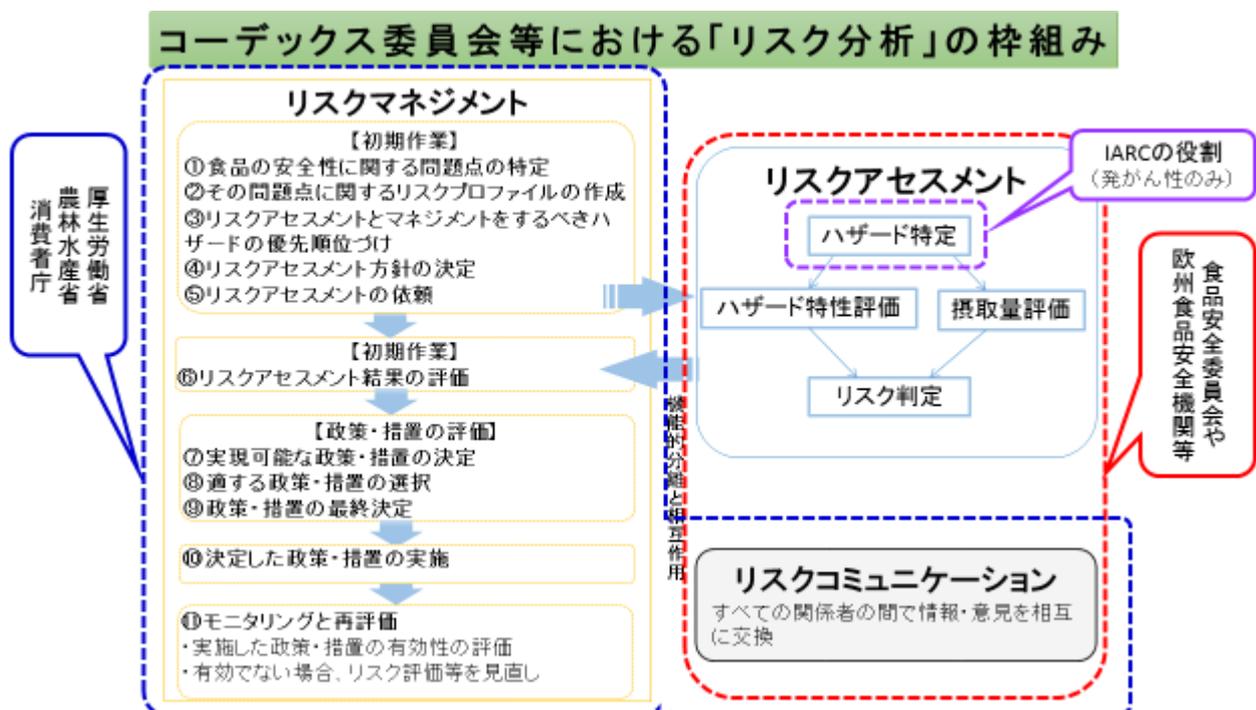
「IARCは、発がん性を有するかについて判断（ハザード特定）をしており、リスクの評価をしていません。（略）」

これはとても技術的に聞こえるかもしれませんが、IARCは、ある物がどの程度強力にがんを引き起こすかを我々に伝えているのではなく、発がん性（の可能性（訳注））があるかないかだけを言っているのです。

バナナの皮を例に挙げてみましょう。バナナの皮は（滑って転ぶ（訳注））アクシデントの原因になり得ます。しかし、実際にはそんなことは頻回には起こりません（あなたがバナナ工場働いていない限り）。そして、一般的に、あなたがバナナの皮で滑って転んでけがをすることは、車の事故ほど深刻ではありません。

しかし、IARCのようなハザード特定のシステムにおいては、どちらも事故の原因になることから、バナナの皮も車も同じカテゴリーに分けられます。」

また、世界的に用いられているコーデックス委員会*の「リスク分析」の枠組みを用いてIARCの役割を説明すると、以下の図のように、IARCは、「ハザード特定」のみを発がん性に限って行っています。一方で、食品安全委員会や欧州食品安全機関（EFSA）などは、「ハザード特定」のみならず「ハザード特性評価」（発がん性を含む様々な毒性の評価）や「摂取量評価」を行い、リスク評価機関としてリスクアセスメント（リスク評価）全体を行っています。



山田友紀子氏作成資料より

IARC 自身も、自身の役割や発表するモノグラフについて以下のように述べており²、IARC の判断は、それぞれの国の文脈において、摂取量等の情報を加味して検討される必要があります。次の項目以降で、日本において IARC の判断をどのように捉えたら良いかについて解説します。

IARC モノグラフ序文 一般原則及び手順（一部訳）

「(IARC が作成する)モノグラフは、国や国際機関によって、リスクアセスメントを行うこと、予防措置について決定を行うこと、効果的ながん対策プログラムを提供すること、そして公衆衛生の問題に対する代替オプションの中から決定することに使われます。

IARC のワーキンググループの評価は、利用可能なデータに基づく発がん性の証拠に関する科学的定量的判断です。これらの評価は、公衆衛生に関する判断に用いられる情報のある一部分のみを指摘します。

公衆衛生に関するオプションは、国ごとや状況によって異なり、社会経済的側面や国家の優先順位を含む多くの要素と関連しています。そのため、規制や法制度に関して与えられる推奨はなく、それらは個別の政府や他の国際機関の責任です。」

※コーデックス委員会：消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963 年に FAO（国際連合食糧農業機関）と WHO（世界保健機関）により設置された国際的な政府間機関。国際食品規格の策定等を行っている。